

平成 12 年 1 月 12 日

『子どもの事故予防講演会』開催

—事故は病気と同じ健康被害、起きる前の予防が大切—

本日午後 1 時 30 分より、豊島区生活産業プラザ（東池袋 1-20-15）で、前こどもの城小児保健部長の山中龍宏氏を講師に招き、「子どもの事故予防講演会」が開催された。主催：豊島区池袋保健所・豊島区長崎保健所

我が国における子どもの死亡原因のトップは「不慮の事故」。この「不慮の事故」には、交通事故とともに、浴槽での溺れや、やけど、誤飲など家庭内での事故も多く、こうした家庭内の事故は、日常の安全性チェックで未然に防げるものも少なくない。

今回の講演会は、子どもにおこりやすい事故と予防策の話をも専門家から聞き、安全な環境の中でのびのび楽しい子育てをしてもらおうとの目的で開催された。講師の山中氏は、昨年まで「こどもの城」小児保健部長として子ども事故の多くのケースにかかわってきた小児科医で、現在は横浜市で子どもクリニックを開院する一方、「子供の安全ネットワーク・ジャパン」副代表として活躍している。

山中氏は、多くの事故の症例をスライドを使い紹介しながら、事故予防について未然の防止策の重要性を繰り返し訴えた。

◇講演要旨

我が国では、乳幼児の二人に一人が事故によって病院にやってくる。緊急・救急医療の進歩で事故による死亡率は低下してきているが、事故での入院・来院数は変化がない。全国で同じような事故が同じように起きているのが現実。

家庭内で一番危険な場所は浴槽。10センチの水でも子どもは溺れる。また生活環境の変化による新しい事故が 1 例起きれば、必ず全国で同様の事故が何件も発生している。子どもは日々発達するものであり、昨日できなかったことが今日にはできるようになる。大丈夫と思っていてもいつ事故が起きるかは分からない。気をつけている、目を離さないということでは事故は防げない。

事故について、まさか…という気持ちや、運が悪くてと考えるのは間違い。健康被害という事では、事故も病気と同じ。病気に対し予防と検診をするように、解決策がある事故については起きる前の防止策が大切である。起こったあとの治療やリハビリを考えれば、未然の予防が経済的にも安上がりで、技術的にも簡単で効果が大きい事を認識すべきだ。

講演の後、参加者たちは池袋保健所（東池袋 1-20-9）内の「子ども事故予防センター」を見学、センター内のモデルルームで、家庭内で起こりやすい事故を実際に目で確かめた。

「子ども事故予防センター」は、子どもの事故予防、安全教育の普及を図るため、平成 8 年全国に先駆け池袋保健所内に開設され、平成 10 年 12 月の同保健所の移転・新設に合わせ、玄関・居間・キッチン・風呂場などを備えたモデルルームが設置された。設置にあたっては、子どもの事故予防や海外のセーフティセンターなどの事情にも詳しい、本日の講師山中氏も協力した。

参加者たちは、講演での話を、実際のモデルルームで追体験し、「一目瞭然」と感想を述べていた。

詳細：池袋保健所 健康推進課・母子保健係